

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「氷河期世代の真実」

SNSでは周期的に「氷河期世代」にスポットが当たります。厳しいデフレ経済の渦に巻き込まれ、20代では就職機会に恵まれず、30代、40代と非正規雇用のまま低賃金労働者として不安定な生活から抜け出せず、ゆえに家庭を持つこともままならず、気づけば年齢的にリストラの対象として扱われている辛酸と悲哀が格好の投稿ネタとなっているようです。

就職氷河期を生んだ要因はバブル経済の崩壊と学卒年代の人口過多の不運な一致です。氷河期世代は現在の少子化社会では考えられないベビーブーム世代で大半は兄弟が2人ないし3人いる世代です。大卒年齢時には180万人～210万人が職を求めました。求人難とされる現在は120万人程度。昨年生まれた子は70万人を切りました。

「氷河期世代に生まれたばかりに損をしている」と感じている労働者は多いでしょう。しかし、直近30年間は何の世代にとっても等しく厳しいものでした。政府が50歳に差ししかろうとする氷河期世代ヘリスキングによる支援を行う動きはありますがすでに時が立ち過ぎました。失われたものはリスキングでは取り返せません。

その一方で、今の日本企業を牽引してくれているのも働き盛りを迎えた40代～50代前半の氷河期世代にあたる方々なのです。コロナ不況の克服からデフレ脱却まで、日本経済を回復軌道に乗せる指導力を発揮する世代です。これも真実の一面であることを申し上げたいのです。



当社ではこの4月1日(火)、9名の新卒社員を迎え入れることが出来ました。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路先に当社を加えてください。新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「令和の米騒動」

農水大臣の更迭劇から一転して政府備蓄米の追加放出が決まりようやくコメの店頭価格が下がって来ました。近所の食品スーパーではそれまで5kg 4500円前後で推移していたものが3880円で売られはじめました。8月には早場米が入荷するので、国民がこぞって買い控えをすれば3500円、作柄に異常がなければもっと安く手に入りそうです。

買い占めに走って暴騰、流通量増加で価格低下。商品の需給によって価格が決まる教科書通りの展開です。そもそも今回の米騒動の発端は突如「南海トラフ地震臨時情報」が出され、不安感が高まっていたところに警戒域に含まれていた神奈川県域で大きな地震が発生したことでした。

その直後から首都圏の食品スーパーの店頭からお米が消えた映像がSNSで拡散され、普段ストックを置かなかった家庭が買い置きに走り、供給不足感が定着してしまいました。それでも小泉新農水相が「お米5kg 2000円台ではなくて2000円だ」と陣頭指揮を執ってからは状況が劇的に変わっています。

政府与党議員ならば口が裂けても言えない米価対策があります。「皆が買い控えれば米価は暴落する」ということです。デフレ時代の国民の消費行動はまさにこれでした。食料品に限らず、工業製品や家電品までサプライヤーが泣く泣く在庫処分させられるまで買いを手控え、損切りさせてから商品を手にした厄介な消費行動です。もう一度国民に「デフレのうまみ」を思い起こさせてはなりません。これこそ米騒動より日本経済にとって災難となります。



当社では毎年、多くの新卒採用者を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼ら、彼女らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路検討に当社を加えてください。

新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「秋は夕暮れ、闇もなほ」

早朝の冷え切った空気にほのかに甘くさわやかなキンモクセイの香りが漂いはじめ、思わず深呼吸せずにはいられない季節になりました。本格的な秋の訪れを嗅覚で確認できるようになったのは校庭に植えられたキンモクセイの木の前を歩いた小学校高学年になってからのことでした。

「残暑は新学期が始まる9月中旬まで厳しいもの」とは30年前までの日本人共通の「体感」のはずでした。それが近年の温暖化によって秋の訪れがスキップされ、一気に冬の入り口に立たされるようになって、ことさら四季の中で秋を少しでも長く味わいたいと思うようになったのは齢を重ねたご褒美かもしれません。

日本列島に暮らすならば、今から約1000年前の平安の世も令和にあっても同じ夕暮れを見ているはず。清少納言が枕草子に書きとめた「秋は夕暮れ」「冬はつとめて」という清らかな感性を高校時代の自分が理解するにいたらなかった、意欲すらなかったこと今さらに後悔するのです。

あと数週間もすれば、朝7時でも薄暗く、夕方4時半には日は沈みます。たまたま先日、ご挨拶に伺った定時制高校に行く途中、道を間違えてしまい電灯ひとつない真っ暗な夜道を歩く羽目になりました。漆黒の情景を「闇もなほ」と捉えた平安びとに遠く及びません。



当社では毎年、多くの新卒採用者を迎え入れております。ひとりでも多くの若い力を大切に育て上げたい。会社を通して彼ら、彼女らの人間形成の役に立ちたいと存じます。ぜひとも、大切な生徒様の進路検討に当社を加えてください。

新年度も、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎